

形容詞 **same** と英語名詞句の統語論

前川 貴史
龍谷大学

関西言語学会 (KLS) 第 45 回大会

1. はじめに

Same NP

- [限定詞] + [same] + [名詞] という配列をもつ名詞句を、便宜上「same NP」と呼ぶ。

(1) *The same thing* happened to my father. (BNCweb: B1X 930)

本発表のアウトライン

- 限定詞と **same** の間には緊密な統語的關係があることを確認する。
- **same NP** には定の解釈を持つものと不定の解釈を持つものが存在することを観察する。
- (不定の解釈を持つ) **same NP** の提起する統語論的問題を指摘する。
- Head-Driven Phrase Structure Grammar (HPSG) の枠組みによる分析を提示する。

2. 限定詞の義務性

- **same NP** では限定詞が義務的である。

(2) *(The) *same thing* happened to my father.

限定詞と **same**

- **same NP** では、限定詞が義務的でない複数形名詞が主要部であっても、限定詞が必須である。

(3) *(The) *same things* happened to my father.

- 主要部名詞が現れない代用表現 (Substitute form; Quirk et al. (1985: 873)) における **same** にも限定詞が現れる。

(4) A: Can I have *a cup of black coffee with sugar*, please?
B: Give me **the same**, please. (Quirk et al. (1985: 873))

(5) a. Yesterday I felt *under the weather*, and today I feel **the same**.
b. The milk smells *sour* and this butter **the same**.
c. A: (I say) *Oxford is likely to win the next race*.
B: I say **the same**. (Quirk et al. (1985: 873))

(6) Give me *(the) *same* again, please. (Swan (2016: 571))

- 主要部名詞が存在しない叙述用法 (Predicative function; Huddleston & Pullum (2002: 1138)) においても、限定詞が現れる。

(7) (...) *things* were clearly not **the same** between them. (M. Ribowsky, *He's a Rebel*, p.47)

(8) The children are *(the) same. (Mathews (2014: 69))

- (4) (5) (6) の代用表現用法は先行詞を指示するものであり、修飾語ではない。よって名詞の省略はない (Breban (2010: 238), Quirk et al. (1985: 874))。
- (7) (8) の叙述用法についても、叙述用法の形容詞と同様、名詞の省略はないと考えられる。

(9) The dog is *black*.

- よって、限定詞は主要部名詞ではなく *same* からの要請で存在する。

3. 定の解釈

定性の定義

- Quirk et al. (1985: 265) にしたがって、定性を次のように定義しておく。

(10) ‘(...) referring to something which can be identified uniquely in the contextual or general knowledge shared by speaker and hearer.’ (Quirk et al. (1985: 265))

定の解釈をもつ same NP

- (11) の same NP は先行文脈に存在する要素 (下線で表示) を指示している。

(11) a. Indeed, his Collected Works for the period 1901-1913 fill a measly two volumes, whereas Lenin’s for *the same period* fill fifteen. (D. Kalder, *Dictator Literature*, p.47)
b. Her uncle, George Spektor’s brother, was living in Los Angeles, and he had begged her to come out there; other relatives there made *the same plea*. (M. Ribowsky, *He’s a Rebel*, p.15)

- (12) の same NP は、複数の要素に関係している (共有する) 一つのことを指示している。

(12) a. I’m in *the same room* as Dustin! (P. Du Noyer, *Conversations with McCartney*, p.271)
b. Although they lived in *the same house*, they rarely saw each other. (P. Ackroyd, *Charlie Chaplin*, p.115)

- 上記 (11) (12) の same NP は文脈内で唯一的に指示対象が決定するので、定の解釈を持っていると言える。

4. 不定の解釈

there 存在文のなかの same NP

- (13) では same NP が there 存在文に生起している。

(13) a. (...) there is *the same incentive* for her to cheat, too. (H. Fry, *The Mathematics of Love*, p.209)
b. (...) there is *the same pattern* of increasing satisfaction preceding a downturn in later years, (...). (BNCweb: FPJ 1517)

- 一般に、there 存在文の NP 位置に現れるのは不定名詞句に限られ、定名詞句は不可である。¹

¹ 以下のようなリスト文の場合には定名詞句も生起できる。

(14) There is {a/*the} man in the room. (Safir (1985: 92))

- (15) が示すように、there 存在文においても same NP には the は必須である。

(15) a. There were **the same people** at both conferences. (Prince (1992: 299))
b. There were *(the) same people at both conferences.

- there 存在文に生起できるということは、定冠詞 the は same NP を定名詞句にする力を持たない。

an identical N との対応

- (16) の文は、Mary と Jane が同一のジャケットを着ていなくても、別々のジャケットだが色・サイズ・形などが同じである場合にも使用できる。

(16) Mary and Jane wore **the same jacket**. (Filipović & Hawkins (2016: 308))

- この場合、the same は不定冠詞をもつ an identical に入れ換えることができる。

(17) Mary and Jane wore an identical jacket. (Filipović & Hawkins (2016: 308))

5. 構成素構造

定の same NP

- (11) (12)のような定の解釈をもつ same NP は、通常の定の名詞句と同様の (18) の構造を仮定する。

(18) [NP the [A same] [N thing]]

不定の same NP

- (13) (15) (16) のような不定の解釈をもつ same NP は (19) のような構造をもつと考えられる (cf. Mathews (2014: 69))。

(19) [NP [the same] [N thing]]

- 限定詞は same と構成素を形成しているので、主要部名詞の定性とは無関係である。
- 結果として、限定詞のもつ定性が same NP 全体の定性には無関係であることが捉えられる。
- 統語的な証拠として、the same をひとまとめにして主要部名詞の後に置くことができる。

(20) a. I shall try to do **something the same**. (BNCweb: KRH 1859)
b. If you don't want a house the same as next door, this is the one for you.²

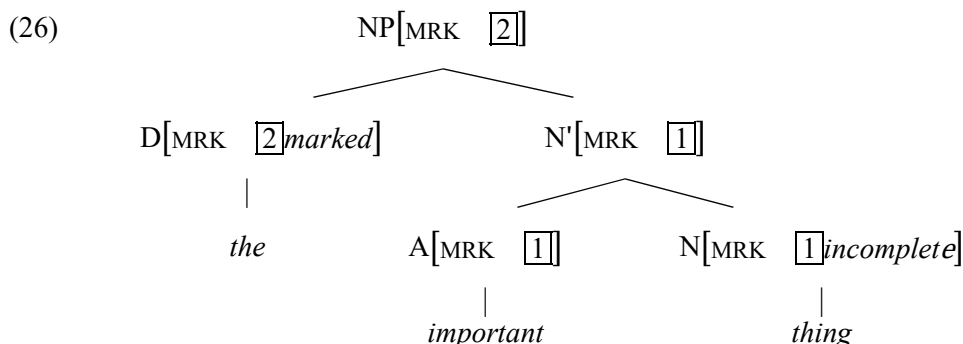
- (20)b において、主要部名詞の前に不定冠詞 a が現れていることに注意。

(i) Q: How could we get there?
A: Well, there's **the trolley**... (Rando and Napoli (1978: 300))

² 'You'll never get bored of this quirky, mud-brick home', *news.com.au* : <https://www.news.com.au/finance/real-estate/adelaide-sa/youll-never-get-bored-of-this-quirky-mudbrick-home/news-story/56a2689ff56ba4f4123456479c3183fd>

7. HPSG による分析

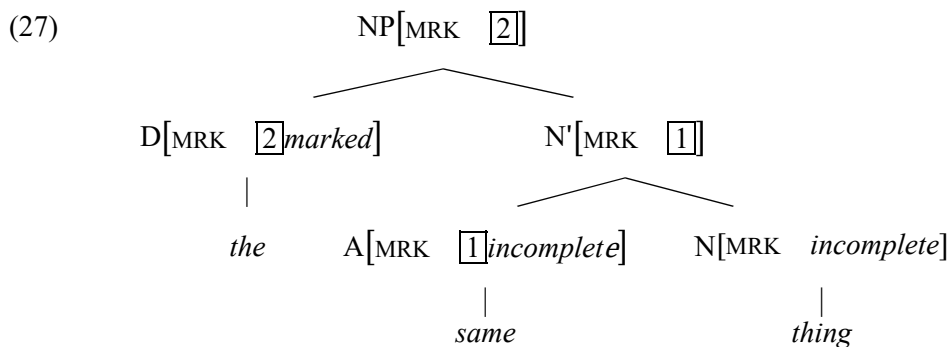
- 通常の限定詞+形容詞+名詞は以下のような統語構造を持つ (Van Eynde (2006))。³



- MARKING 属性 (MRK) の値は、当該の語句が限定詞を必要とするかどうかという情報を表す。
 - *incomplete* : 限定詞がなければ文中に現れることができない。
 - *marked* : 限定詞をすでに持っているので文中への生起が認可される。
- 単数形可算名詞 *thing* は限定詞がなくては文中に現れないので、MRK の値は *incomplete* である。
- 定冠詞 *the* は限定詞であるので MRK の値は *marked* である。
- *important* など通常の形容詞は主要部名詞から MRK の値を引き継ぐ (1 のタグ)。
- MRK の値は非主要部娘 (non-head-daughter: 主要部を内に含む構成素と組み合わせられる要素) から上位レベルに順次継承される (1 および 2 のタグで示されている)。
- N の *thing* や N' の *important thing* の MRK の値は *incomplete* だが、最上位の NP は *marked* なので、文中に生起することができる。

定解釈の same NP

- (18) と (26) の構造に基づいて、定解釈の same NP について (27) の構造を提案する。



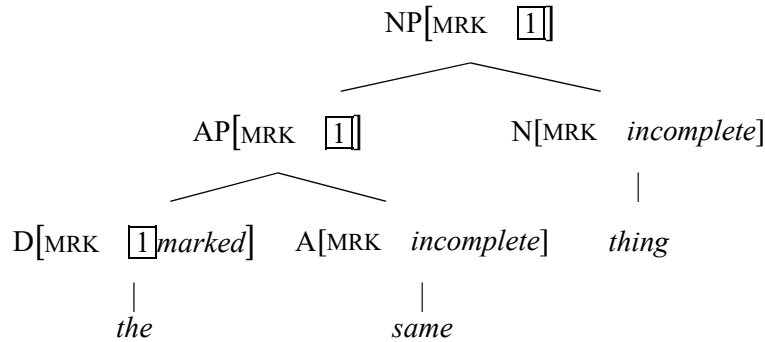
- 形容詞 *same* は、上記 *important* などの通常の形容詞と異なり、限定詞が義務的であるので、MRK の値は *incomplete* として語彙的に指定されていると仮定する。
- N' の *same thing* の MRK 属性は、非主要部娘 *same* のもつ値が継承されて *incomplete* となる。
- つぎに *the* と N' が組み合わせられるが、MRK の値は非主要部娘である *the* から継承されて *marked* となる (2 で表示)。
- このようにして最上位の NP レベルの MRK の値が *marked* となることから、この *same NP* は文中への生起が可能になる。

不定解釈の same NP

- (19) の構造に基づいて (28) の構造を提案する。

³ 以下の図式では議論に必要な情報のみ表示している。

(28)



- 限定詞から MRK 属性の値が継承されるため、**the same** の MRK 属性の値は *marked* になる。
- これが単数形可算名詞 **thing** と組み合わせると、MRK 属性の値が最上位 NP に継承される。
- **the same** は修飾語であるが (6 節)、MRK 属性の値として **the** から継承された *marked* をもつことによって、限定詞のように単数形可算名詞を認可する機能 (1 節) を獲得する。

8. おわりに

- **same** の MRK の値を *incomplete* として語彙的に指定することによって、限定詞との統語的關係を保証する。
- HPSG によって、**same NP** のふたつの構造 (定解釈の (27) と不定解釈の (28)) を、通常の名詞句分析と同じ道具立て (26) を用いてうまく捉えることができる。
- (28) の分析は、**same NP** において **the same** が示す一見矛盾した振る舞い (6 節) について一般性を損なわずに説明を与えることができる。
- 経験的に妥当な統語理論は、一般性の高い言語現象から一般性の低い現象まで一貫して説明できるものでなければならない (Culicover & Jackendoff (1999: 544))。本研究は、そのような経験的妥当性を HPSG 理論が有している可能性があることを示している。

参考文献

- Carter, R. & McCarthy, M. 2006. *Cambridge Grammar of English*. Cambridge: Cambridge University Press.
- Culicover, P. W. & Jackendoff, R. 1999. The view from the periphery: The English comparative correlative. *Linguistic Inquiry* 30. 543–571.
- Filipović L. & Hawkins, J. 2016. English article usage as a window on the meanings of *same*, *identical* and *similar*. *English Language and Linguistics* 20. 295–313.
- Huddleston, R. & Pullum, G. K. 2002. *The Cambridge Grammar of the English Language*. Cambridge: Cambridge University Press.
- Mathews, P. H. 2014. *The Positions of Adjectives in English*. Oxford: Oxford University Press.
- Pollard, C. J. & Sag, I. A. 1994. *Head-Driven Phrase Structure Grammar*. Chicago: University of Chicago Press.
- Prince, E. F. 1992. The ZPG Letter: subjects, definiteness, and information-status. In S. A. Thompson and W. C. Mann (eds.), *Discourse Description: Diverse Analyses of a Fundraising Text*. Amsterdam/Philadelphia: John Benjamins. 295–325.
- Quirk, R., Greenbaum, S., Leech, G. & Svartvik, J. 1985. *A Comprehensive Grammar of the English Language*. London: Longman.
- Rando, E. & Napoli, D. J. 1978. Definites in *there*-sentences. *Language* 54. 300–313.
- Safir, K. J. 1985. *Syntactic Chains*. Cambridge: Cambridge University Press.
- Swan, M. 2016. *Practical English Usage: Fourth Edition*. Oxford: Oxford University Press.
- Van Eynde, F. 2006. NP-internal agreement and the structure of the noun phrase. *Journal of Linguistics* 42.139–186.